11/20 (2014)

仁科記念講演会



京都大学大学院理学研究科



Outline

はじめに:原子物理学の発展 *「分光」から「制御」へ*

● 凝縮系の量子シミュレーション — 光格子中の冷却原子 ― イッテルビウム原子を用いた研究

原子物理学の発展

:原子の内部構造 「分光」の対象 量子力学の構築 精密測定: 永久電気双極子モーメント、パリティ非保存 原子時計、磁力計、... レーザー冷却・トラップ法の開発(1980年代) 「制御」の対象:原子の外部自由度

ー冷却・トラップ





[E. Cornell et al, (1995)]

空間分布 [R. Hulet et al, (2000)]



"フェッシュバッハ共鳴"

原子の2つの状態 (●●)の相互作用 を磁場で制御











ハバード模型 $H = -J \sum C_i^+ C_j + U \sum n_{i\uparrow} n_{i\downarrow}$ i-th j-th *<i*, *j>* ホッピング項 (オンサイト)相互作用項

<u>磁性,高温超伝導,...</u>



ハバード模型 $H = -J \sum C_i^+ C_j + U \sum n_{i\uparrow} n_{i\downarrow}$ i-th j-th *<i*, *j>* ホッピング項 (オンサイト)相互作用項 - <u>光格子中の冷却原子</u>を用いた量子シミュレーシ

R. Feynman

一つのゴール: 高温超伝導(銅酸化物)の量子シミュレーション



[in T. Moriya and K. Ueda, Rep. Prog. Phys. 66(2003)1299]

光格子量子シミュレータ (実験装置)









$$H = -J \sum_{\langle i,j \rangle} a_i^+ a_j + \frac{U}{2} \sum_i n_i (n_i - 1)$$



 $V = V_o \sin^2(kx)$

1)大規模量子多体系:典型的原子数~10⁵個以上 2)不純物·格子欠陥無

3)高い制御性:

UとJの比: 光格子レーザーの強度を変えることで高精度に実時間制御可能

$$U/J = a_s k_L \sqrt{2} \exp(+2\sqrt{s})$$

 $s \equiv V_o / E_R$, $E_R \equiv (\hbar k_L)^2 / 2m$:反跳エネルギー, a_s : 散乱長

ボース・ハバードモデル:"超流動 – モット絶縁体 転移"

小 ← 光格子ポテンシャルの深さ: $V_0 \longrightarrow$ 大 U/J



"Time-Of-Flight 法による運動量分布の観測"





$$H = -J \sum_{\langle i,j \rangle} a_i^+ a_j + \frac{U}{2} \sum_i n_i (n_i - 1)$$



 $V = V_o \sin^2(kx)$

1)大規模量子多体系:典型的原子数~10⁵個以上 2)不純物·格子欠陥無

3)高い制御性:

UとJの比: 光格子レーザーの強度を変えることで高精度に実時間制御可能

$$U/J = a_s k_L \sqrt{2} \exp(+2\sqrt{s})$$

 $s \equiv V_o / E_R$, $E_R \equiv (\hbar k_L)^2 / 2m$:反跳エネルギー, a_s : 散乱長

U: フェッシュバッハ共鳴を用いて任意の大きさに制御可能

フェルミ・ハバードモデル:"金属–モット絶縁体 転移"





$$H = -J \sum_{\langle i,j \rangle} a_i^+ a_j + \frac{U}{2} \sum_i n_i (n_i - 1)$$



 $V = V_o \sin^2(kx)$

1)大規模量子多体系: 典型的原子数~10⁵個以上 2)不純物·格子欠陥無

3)高い制御性:

UとJの比: 光格子レーザーの強度を変えることで高精度に実時間制御可能

$$U/J = a_s k_L \sqrt{2} \exp(+2\sqrt{s})$$

 $s \equiv V_o / E_R$, $E_R \equiv (\hbar k_L)^2 / 2m$:反跳エネルギー, a_s : 散乱長

U: フェッシュバッハ共鳴を用いて任意の大きさに制御可能

J: 光格子の位相変調などにより任意の大きさ・位相に制御可能

三角格子のフラストレート磁性の量子シミュレーション [Sengstockら]



人工"強磁場"の生成

[Ketterle, Blochら]

ラマンレーザー光によるホッピング:



パイエルス位相の導入: $J \rightarrow J'e^{i\theta m}$



特徴的な干渉パターンの観測







$$H = -J \sum_{\langle i,j \rangle} a_i^+ a_j + \frac{U}{2} \sum_i n_i (n_i - 1)$$







4)多様性:

量子統計(ボース・フェルミ・混合系) 次元性(0次元、1次元、2次元)



立方格子・非標準型格子(三角、カゴメ、ハニカム、リープ) バンド構造(ディラックコーン、平坦バンド)



Lieb格子(=d-p模型)

銅酸化物の高温超伝導物質をより忠実に再現した格子モデル





$$H = -J \sum_{\langle i,j \rangle} a_i^+ a_j + \frac{U}{2} \sum_i n_i (n_i - 1)$$



5)優れた観測法

運動量測定(ToF法)、単一サイト観測・制御(量子気体顕微鏡)















まとめ1

"光格子中の冷却原子系は ハバード模型の理想的な量子シミュレーターである"

1)大規模量子多体系 典型的原子数~10⁵個以上
2)不純物・格子欠陥無
3)ハバードパラメーターの高い制御性 U/J, U(フェッシュバッハ共鳴). J(位相変調など)
4)多様性

量子統計、次元性、標準・非標準格子 5)優れた観測法

まとめ1 "光柊 ハバード模型 である" 当初の 1)7 ほとんどの研究が 2) アルカリ原子 3) を用いて行われてきた 4)多 量 5)優れた街

まとめ1 "光格 ハバード模型 である" $1)_{7}$ 我々のアプローチ: イッテルビウム原子 2) 3) に着目 4)多 5)優れた



[†]Based upon ¹²C. () indicates the mass number of the most stable isotope.

For a description of the data, visit physics.nist.gov/data

NIST SP 966 (September 2003)



独:ハンブルグ大学 (ゼンクストック教授)

独:マックスプランク研究所 (ブロッホ教授)

韓国ソウル大学

中国

伊:フィレンツェ大学 (イングッシオ教授)



ワシントン大学

メリーランド大学

/NIST(ポルト教授)

(グプタ教授)

英:ダーラム大学 (コーニッシュ教授)

世界的な広がりを見せるYb原子量子気体の研究

イッテルビウム原子の特徴



Boson	Boson	Fermion	Boson	Fermion	Boson	Boson
(0.13%)	(3.05%)	(14.3%)	(21.9%)	(16.2%)	(31.8%)	(12.7%)
¹⁶⁸ Yb	¹⁷⁰ Yb	¹⁷¹ Yb	¹⁷² Yb	¹⁷³ Yb	¹⁷⁴ Yb	¹⁷⁶ Yb



強く相互作用する2重モット絶縁体



イッテルビウム原子の特徴



¹⁶⁸ Yb	¹⁷⁰ Yb	¹⁷¹ Yb	¹⁷² Yb	¹⁷³ Yb	174 Yb	¹⁷⁶ Yb			
(0.13%)	(3.05%)	(14.3%)	(21.9%)	(16.2%)	(31.8%)	(12.7%)			
Boson	Boson	Fermion	Boson	Fermion	Boson	Boson			
I=0	I=0	I=1/2	I=0	I=5/2	I=0	I=0			
173Yb(I=5/2): SU(6) カイラルスピン液体									

SU(N)強磁性

他

スピン自由度の活用:ポメランチュク冷却



[Pomeranchuk, (1950)]

スピン自由度の活用:ポメランチュク冷却







まとめ2

"光格子中の冷却イッテルビウム原子を用いて ユニークな量子シミュレーション研究が可能である" 1)ボース・フェルミ2重モット絶縁体 2)SU(6)モット絶縁体 ポメランチュク冷却 3) 超高分解能レーザー分光 現在進行中の研究テーマ: SU(6)量子磁性 平坦バンドの強相関物理 不純物問題(アンダーソン局在) 新奇BCS状態 量子断熱操作(トポロジカルポンピング、量子アニーリング) ボース凝縮体を用いた近距離重力の検証

京都大学 量子光学研究室のメンバー





ご清聴どうも有難うございました



16 August Mount Daimonji at Kyoto